

令和7年9月末現在 事業進捗率 98%



逢瀬川の河川改修は、県道荒井郡山線道路改良事業(令和3年度完了)や郡山市施行の伊賀河原土地区画整理事業や市道麓山一丁目久保田線道路整備事業などと連携を図りながら整備を進めています。

① 逢瀬橋から大窪橋までの区間 【令和7年6月撮影】



① 逢瀬橋から大窪橋間の築堤護岸及び堤防道路が令和4年度に完成しました。

② 大窪橋から咲田橋までの区間 【令和7年6月撮影】



② 大窪橋から咲田橋間の築堤護岸及び堤防道路が令和4年度に完成しました。(咲田橋施工範囲を除く)
現在、咲田橋架け替えのため旧橋を撤去し、新しい橋梁の下部工を実施しています。

③ 咲田橋から東部幹線(市施行)までの区間 【令和7年6月撮影】



③ 咲田橋から東部幹線間の築堤護岸及び堤防道路が完了しました。

④ 東部幹線から幕ノ内橋までの区間 【令和7年6月撮影】



④ 東部幹線から幕ノ内橋上流部間の築堤護岸が完成しました。令和5年度には幕ノ内橋が完成しました。

一級河川 逢瀬川 郡山市若葉町地内

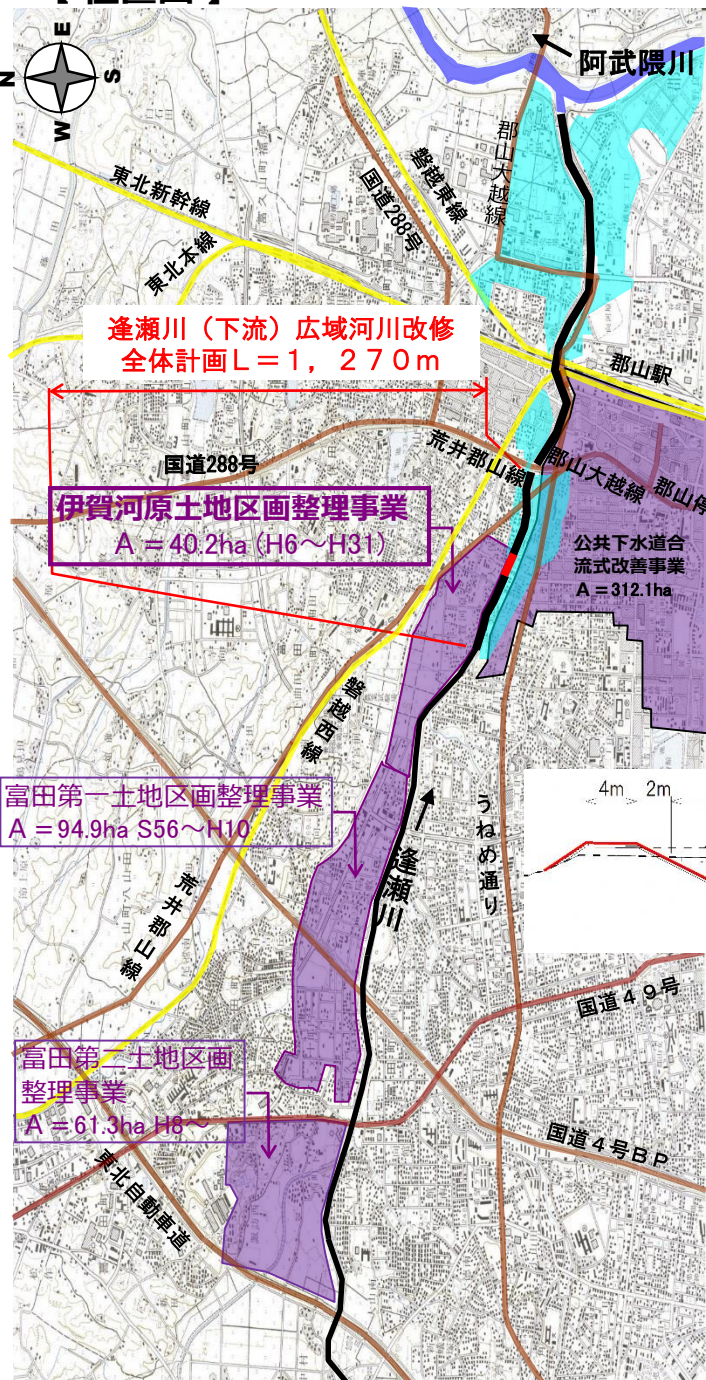
逢瀬川は、奥羽山脈の豊かな森林地帯を源流とし、本県の経済・文化の中心都市である郡山市の市街地を貫流して阿武隈川へ流下する、流域面積56.6km²の一級河川です。

市街地の浸水被害を解消し人々の安全で安心な生活を守ること、市街地の活性化を支援することを目的に、景観に配慮したまちづくりと一体となった河川整備を進めています。

事業の必要性と効果

河川断面が狭小であったため、昭和61年8月の台風、平成10年8月や平成23年9月の集中豪雨などに伴い沿江市街地の浸水被害が発生しました。また、令和元年東日本台風時には阿武隈川本川の異常な水位上昇に伴う浸水被害も発生しています。河川の断面積を広げるとともに堤防の高さを上げることにより、浸水被害の発生を軽減します。

【位置図】



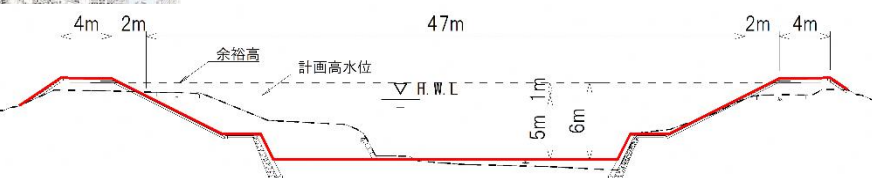
事業概要

全体計画延長：L=1,270m
 事業着手：昭和63年度
 事業完了：令和8年度（予定）
 事業概要：築堤護岸工 L=1,270m
 橋梁工 N=3橋
 大窪橋（完成）
 咲田橋（施工中）
 幕ノ内橋（完成）
 樋門工 N=5箇所（完成）

令和7年度の事業内容

- ・咲田橋新橋下部工（橋台、橋脚）
- ・咲田橋新橋上部工（橋桁）
- ・護岸工
- ・物件補償（咲田橋関連）

【河川：標準横断面図】



【令和元年10月出水状況】



改修区間・・・
 今年度施行区間・・・

ふねひき

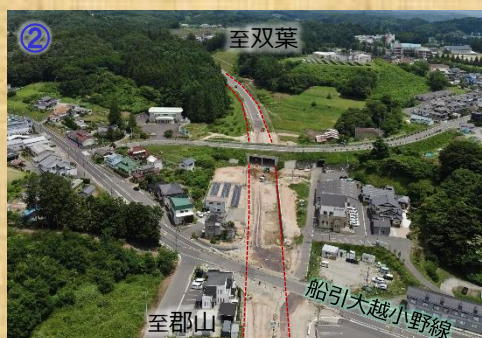
国道288号船引バイパス 進捗状況



令和7年9月末現在

事業進捗率 98%

令和7年度内
全線開通予定



ドローン映像公開中!



国道288号（船引バイパス）

田村市船引町春山地内

国道288号は、郡山市から双葉町に至る延長約85kmの中通りと浜通りを繋ぐ地域連携道路であり、緊急輸送道路第二次確保路線にも指定されています。また、福島県復興計画においてふくしま復興再生道路に位置づけられている重要な道路です。

船引バイパスは、災害に強い道路ネットワークの構築、田村市船引町中心市街地の交通混雑の緩和と良好な市街地形成を目的に、延長約7kmのバイパスを整備しています。

事業の必要性と効果

田村市船引町中心市街地は、道路の幅員が狭く、大型車の通行に支障をきたすとともに、交通混雑が発生しています。

船引バイパスの整備により、定時性の確保・所要時間の短縮、交通の分散がなされ、災害に強い道路ネットワークの構築と田村市船引町中心市街地の交通混雑の緩和により、安全で円滑な交通を確保します。

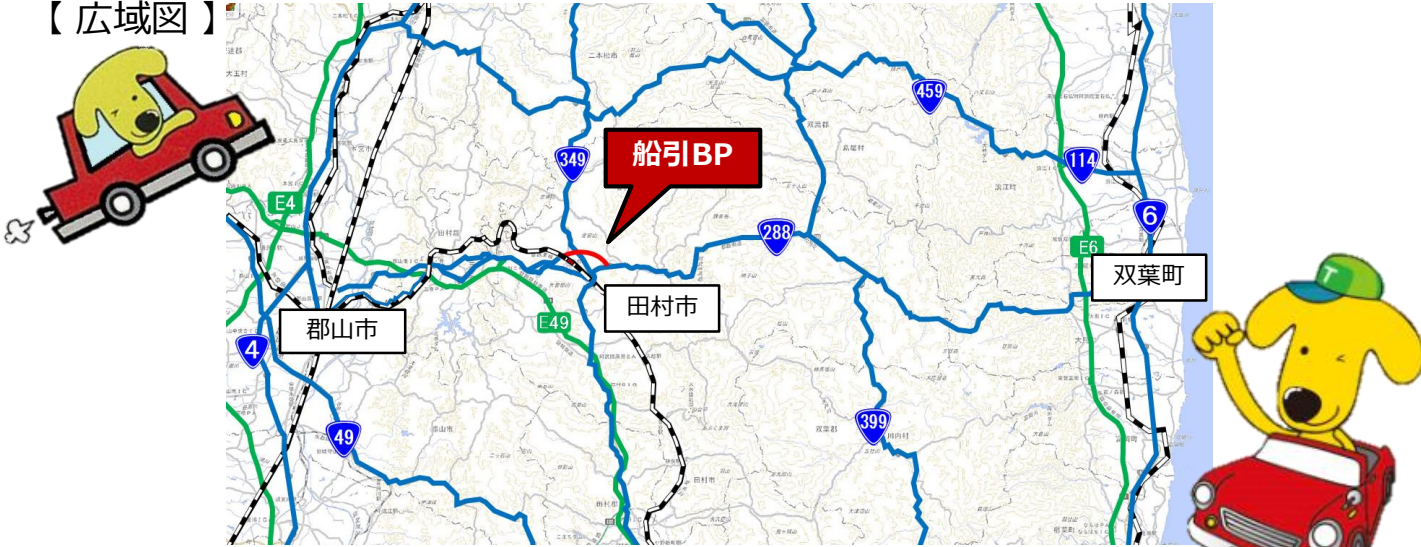
事業概要

延長L=6.80km 幅員W=6.5(11.0)m
H8年度 事業着手
H24年度 1工区工事着手
H27年度 2工区工事着手,1工区供用開始

令和7年度の事業内容

- 船引バイパス
 - ・2工区 改良舗装工,ポンプ設備工 等
 - ・3工区 改良舗装工,橋梁上部工 等

【広域図】



★【現道状況】



【現道状況】



吉間田滝根線

ひろせ 広瀬工区 進捗状況

事業着手
平成24年

令和7年9月末現在
事業進捗率 99%



< 現道の状況 >

< 開通後の道路利用状況 >

< 小野IC通行規制状況 >

【現道状況(幅員狭小)】



現道は幅員が狭く、急勾配、急カーブとなっています。

【利用状況】自動車専用道路区間



【現道状況(除雪状況)】



【利用状況】一般道区間



- 令和6年4月13日(土)に開通式を執り行い、9.2 km区間が開通いたしました。
- 小野ICの平田・矢吹方面へ向かうランプ部につきましては、舗装面に発生した段差の影響により、**通行止め**にて対策工事を実施しており、令和8年3月の完了を予定しております。平田・矢吹方面をご利用の方は、県道矢吹小野線等へ迂回いただくか、滝根ICをご利用ください。

吉間田滝根線（広瀬工区）

田村市滝根町広瀬地内～田村郡小野町大字小戸神地内

吉間田滝根線は、福島県復興計画において、小野富岡線とともにふくしま復興再生道路に位置づけられ、浜通りと中通りをつなぐ重要な道路となっています。

広瀬工区は、地域間の連携強化を促進し、交流人口増による地域の発展と、医療・福祉の確保を図ることを目的に、あぶくま高原道路小野ICから小野富岡線までのL=9.2kmの区間を整備しました。

平成24年度から事業に着手し、令和6年4月に供用を開始いたしました。

今年度は、小戸神橋（拡幅部）の対策工事を実施しており、令和8年3月の完了を予定しています。

事業の必要性と効果

矢大臣山前後の急峻で狭隘な区間や小野町中心市街地などにおいて、安全で円滑な交通に支障をきしています。

本事業により浜通り地方及び川内村から県中都市圏、あぶくま高原道路並びに公立小野町地方総合病院への良好なアクセスが形成されます。

令和7年度の事業内容

- ・小戸神橋変状対策工
- ・町道付替工
- ・流末排水工
- ・旧道処理工

事業概要

延長L=9.2km

〔自動車専用道路 L=2.6km〕
〔一般道区間 L=6.6km〕

幅員W

〔自動車専用道路 W=7.0(10.5)m〕
〔一般道区間 W=6.5(9.0)m〕

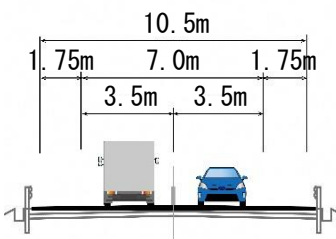
- ・H24年度 事業着手
- ・H28年度 一般道区間6.6kmの直轄権限代行事業着手(～R3年度)
- ・R6年4月 供用開始
小野IC Aランプ通行規制中
- ・R7年1月 小戸神橋対策工事着手
(令和8年3月完了目標)

【位置図】

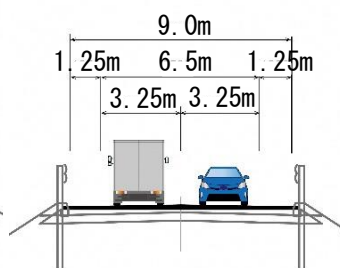


【標準横断面図】

自動車専用道路区間



一般県道区間



小野ICでの通行規制について

平田方面へのオンランプ（合流車線）は舗装面に段差が発生しており、対策工事が完了するまで通行止めとなります。

そのため、小野ICから平田方面へのご利用ができませんので、県道矢吹小野線等へ迂回をお願いいたします。

詳細はこちらから



いわき石川線

いしかわ

石川バイパス 進捗状況

事業着手前
平成16年度 撮影

令和7年9月末現在
事業進捗率 98%

幅員狭小



道路が狭いため、大型車両
同士のすれ違いに支障あり

令和5年2月25日に2工区（L=3.38km）が開通しました！
早期の全線開通に向け、引き続き1工区の工事を進めます。

県道いわき石川線（石川バイパス）

石川郡石川町形見地内～石川町石田地内

いわき石川線は、地域連携道路として浜通りと中通りをつなぐ重要な道路であり、南東北の物流拠点である重要港湾小名浜港から中通りをはじめとする県内各産業集積地への物流を支える道路です。

石川バイパスは、交通・物流の良好なネットワークの構築と石川町中心部の交通混雑の緩和を目的に、延長約5kmのバイパスを整備する事業です。

事業の必要性と効果

石川町中心部は道路の幅員が狭く、大型車の通行に支障をきたすとともに、交通混雑が発生しています。

石川バイパスの整備により、定時性の向上・所要時間の短縮、交通の分散がなされ、交通・物流の良好なネットワークの構築と石川町中心部の交通混雑の緩和を図ります。

事業概要

延長L=5.02km 幅員W=6.5(11.0)m

〔1工区 L=1.64km〕
〔2工区 L=3.38km〕

- ・ H16年度 事業着手
- ・ H16年度 1工区工事着手
- ・ H29年度 2工区工事着手
- ・ R4 年度 2工区供用開始

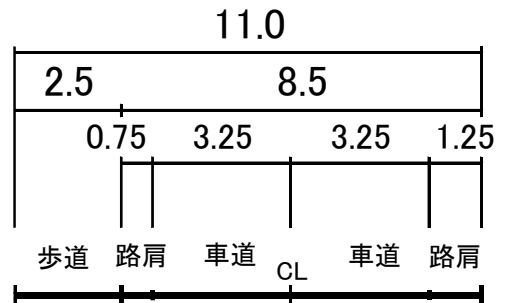
令和7年度の事業内容

- 石川バイパス
- ・ 1工区 道路改良工

【位置図】



【標準横断面図】



【国道118号交差点部の状況】

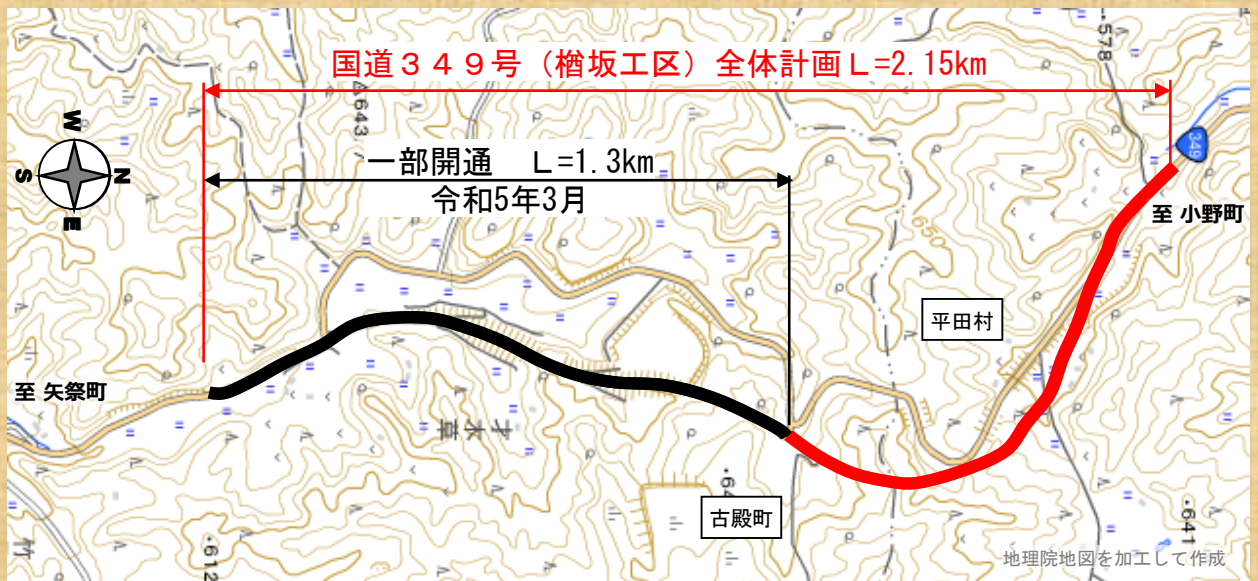


国道349号

ならさか 檜坂工区 進捗状況

事業着手
平成23年度

令和7年9月末現在
事業進捗率 **89%**



【一部開通状況（古殿町）】



【R7施工状況】



- 令和5年3月1日に古殿町内の1.3 km区間が開通しています。
- 切土区間の掘削が完了し、現在、法面工事に着手しています。

国道349号（檜坂工区）

石川郡古殿町山上字才木草地内～石川郡平田村大字北方字檜坂地内

国道349号は、茨城県水戸市を起点とし本県の中通りを縦貫して宮城県に至る重要な幹線道路です。

災害等により浜通り軸（浜通りを縦貫する基幹的な道路）が通行不能となった場合の代替機能を確保することを目的に、檜坂工区は、古殿町と平田村の町村境の峠部の延長L=2,150mを整備しています。

事業の必要性と効果

檜坂工区は、道路の幅員が狭く、急勾配や急カーブが連続し、通行の難所となっています。本事業により、幅員狭小と線形不良ならびに冬期間に路面が凍結する日陰区間を解消し、安全で円滑な交通を確保します。

事業概要

延長L=2,150m 幅員W=6.0(8.0)m

- ・ H23年度 事業着手
- ・ H28年度 工事着手
- ・ R5年3月 古殿町内のL=1.3km供用

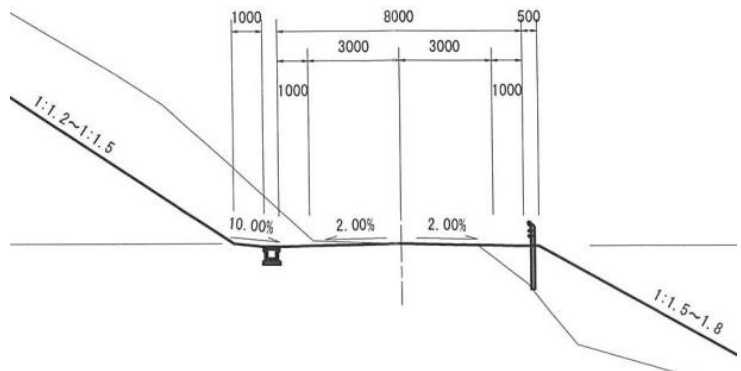
【位置図】



令和7年度の事業内容

- ・ 法面工

【標準横断図】



【現道状況（峠部）】



【現道状況】



いわき石川線

ちょうこうち

まつかわ

長光地工区、松川工区進捗状況



事業着手前
平成23年度 撮影



令和7年9月末現在
事業進捗率
46% (長光地工区)
90% (松川工区)

【長光地工区：工事前】



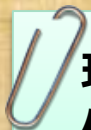
【長光地工区：工事完了箇所】



【松川工区（叶神）：工事状況】



【松川工区（叶神）：工事状況】



現在は、長光地工区では用地調査、松川工区では用地補償を実施しています。

いわき石川線（長光地工区、松川工区）

石川郡古殿町大字鎌田地内、石川郡古殿町大字松川地内 外

いわき石川線は、地域連携道路として浜通りと中通りをつなぐ重要な道路であり、また、南東北の物流拠点である重要港湾小名浜港から中通りをはじめとする県内各産業集積地への物流を支える道路です。

長光地工区及び松川工区は、急カーブや道路の幅員が狭い箇所について、交通の安全性を高めるための道路を整備しています。

事業の必要性と効果

本事業により、急カーブや幅員狭小区間の解消を行い、安全で円滑な交通を確保します。

定時性の向上・所要時間の短縮により、地域間の連携強化、物流の効率化が図られます。

事業概要

- 長光地工区 H24年度事業着手
延長L=1,620m 幅員W=6.5(11.0)m
- 松川工区 H24年度事業着手
延長L=3,640m 幅員W=6.5(11.0)m

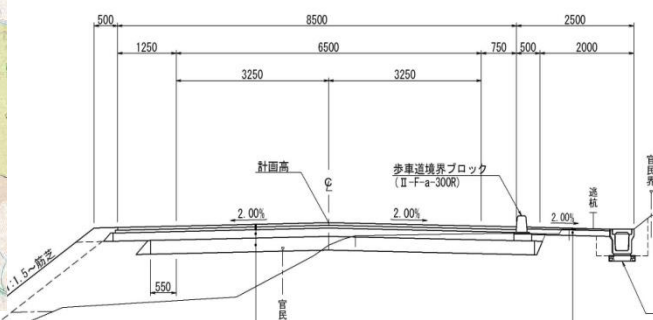
【位置図】



令和7年度の事業内容

- 長光地工区
・用地調査
- 松川工区(叶神)
・用地補償

【標準横断図】



【施工状況：長光地工区】



【令和4年9月撮影】

【施工状況：松川工区(叶神)】



【令和6年12月撮影】

至いわき市

うしなついがわ
右支夏井川河川改修進捗状況

令和7年9月末現在 **上流工区事業進捗率 65%**

現況河川幅8.0m 計画河川幅36.5m
現在、黒森川において護岸工事、右支夏井川の荒町橋付近において河道掘削及び樋管工事を実施しています。

黒森川 工事進捗状況



右支夏井川 工事進捗状況



二級河川 右支夏井川

田村郡小野町大字小野新町 地内

右支夏井川は、小野町の中心市街地を貫流し夏井川に合流する河川です。市街地の浸水被害を解消し、人々の安全で安心な生活を守ることを目的に、まちづくりと一体となった河川整備を進めています。

事業の必要性と効果

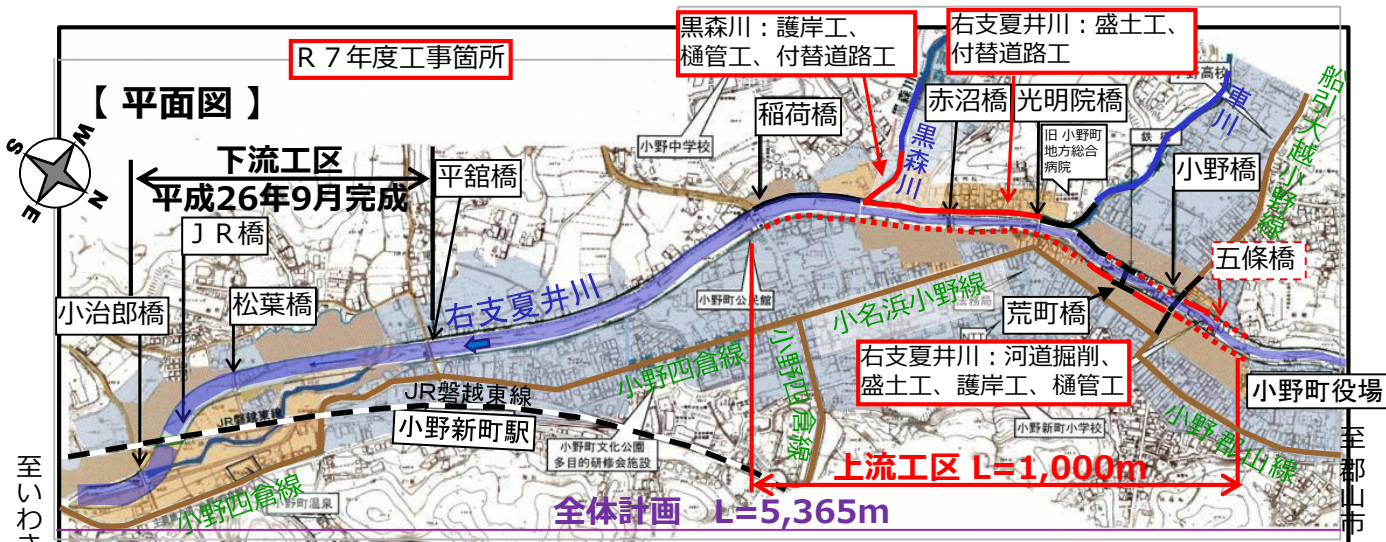
右支夏井川は、中心市街地である小野新町地内において河川の断面積が狭小であるため、昭和61年8月の台風や令和元年の東日本台風で浸水被害が発生しています。本事業により河川の断面積を広げ浸水被害を軽減し、また、まちづくりと一体となった整備により、市街地の活性化に寄与します。

事業概要

- 広域河川改修全体計画 L=5,365m
重点整備区間
- 下流工区(小治郎橋～平館橋) L=1,000m
 - ・H8年度 事業着手
 - ・H26年度 完成
 - 上流工区(稲荷橋～役場裏) L=1,000m
 - 築堤護岸工 L=1,000m
 - 橋梁工 N=4橋 町道工 N=1式
 - ・H26年度 事業着手

令和7年度の事業内容

- 右支夏井川
 - ・調査、設計、用地補償(五條橋～車川合流点)
 - ・河道掘削、盛土工、護岸工、樋管工(車川合流点～黒森川合流点)
 - ・盛土工、付替道路工
- 黒森川
 - ・護岸工、樋管工、付替道路工



【出水状況：小野橋下流】



【出水状況：車川合流部】

